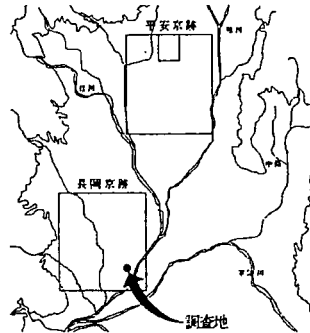


# 長岡京左京六条三坊跡（水垂F区） 古墳時代水田跡発掘調査現地説明会資料

1991.11.09

所在地 京都市伏見区淀水垂町・樋爪町  
調査期間 1990.07.09～継続中  
調査面積 G区15,550㎡ F区14,600㎡  
調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所



## 1. はじめに

調査は、京都市清掃局の埋立処分地拡張工事に伴うもので、全体の広さは京都御所の約1.5倍の13haあります。調査は昨年7月に開始し、現在までに南部のG区の調査を終了してF区を調査中です。今回の報告はF区の水田遺構の調査について行ないます。

## 2. 調査の概要

### 長岡京期の遺構（前回の現地説明会で報告）

調査地は長岡京の東南部にあたり、これまで東二坊大路と六条大路とその交差点、交差点を斜めに横切る河川が見つかりました。河川には橋が架けられており、ほかに水量調節用のしがらみ状遺構や杭列が見つかりました。また、河川の両岸の路面下で小型の木棺墓や土師器の甕を埋納した土壙等が見つっています。しかし、現在までのところ住居跡は見つかっていません。現在でも湿潤な所なので、当時も住むのに適した所ではなかったでしょう。河川から、人面墨書土器、模型カマド、土馬、人形などの祭祀に使用された遺物が多量に出土しています。

### 古墳時代の遺構

長岡京期の遺構面の下層で、古墳時代の水田と流路が見つかりました。これらはほぼ全体を洪水によって運ばれた砂でおおわれていました。水田は桂川右岸の後背湿地の中で、長岡丘陵の裾から南東方向に伸びた海拔高度8.5m～7.8mのゆるやかな傾斜地に営まれています。水田は傾斜に沿った方向（北西→南東）に広くて高いアゼを作り、その間をさらに同方向に3～5本の小さいアゼで分割し、最後に直交する方向にアゼを設けて完成させているようです。ただ今回の調査では直交方向にも大きなアゼが作られ、計画的に一定の区画を設けて、その中を分割していることがわかりました。水田の一つの面積は約5～150㎡で、形は方形または長方形です。面積が比較的小さいのは、ゆるい傾斜地に少ない労力で水をためるための工夫だと思われます。また、水口と思われるアゼが途切れる箇所も見

ついています。

水田面やアゼからは子供のものを含めて多数の足跡が見つっています。また、牛の足跡と思われるものもあります。

流路には、水田の用排水路と考えられるものがあります。たとえば、G-3区の水路（SD2）は幅4～5m、深さ0.7～1mを測り、溝内に流れに直交して堰<sup>せき</sup>を設けています。

水田の年代は、水田からの出土遺物が少ないためにはっきりとしたことは言えませんが、水田を覆っている洪水による砂礫層や流路からは6世紀後半の遺物が出土していること、そして水田の水路から布留<sup>ふるり</sup>式と呼ばれる5世紀中頃の土器が出土していますので、その間に営まれていたものと思われる。

出土した主な遺物には、馬鍬<sup>まぐわ</sup>・鋤<sup>すき</sup>・田下駄<sup>たげた</sup>・杵<sup>きね</sup>・容器（盤<sup>ばん</sup>・槽<sup>そう</sup>）・櫛<sup>くし</sup>などの木製品、壺<sup>つぼ</sup>・甕<sup>かめ</sup>・高杯<sup>たかつき</sup>・小型丸底壺<sup>こがたまるぞつぼ</sup>・器台<sup>きだい</sup>・鉢<sup>はち</sup>などの土師器、坏<sup>はじき</sup>・蓋<sup>つき</sup>・甕<sup>ふた</sup>・高坏<sup>かめ</sup>・高杯<sup>たかつき</sup>などの須恵器<sup>すえき</sup>が出土しています。

### 3. まとめ

今回までの調査で30,000㎡におよぶ広い面積で古墳時代の水田を調査することができました。その結果、次のようなことが分かりました。

- 1)水田は海拔高度8.5～7.8mで、北西から南東に伸びるゆるい傾斜地に作られている。
- 2)水田一つの面積が5～150㎡と小さく、形は方形または長方形で、地形に沿って作られている。
- 3)用排水路から直接水田に水を給排水した施設は見つかりませんでした。水口の位置などから傾斜に沿って、北西の水田から南東の水田へ、順次給排水されたものと考えられます。
- 4)今回の調査で最も大きな成果としては、水田が計画的に地割されていることがわかったことです。

この地割の方法は、代制（しろせい・だいせい）とよばれている地割の可能性が、あります。現在の水田に見られる条里制の前に使われていた土地区画の方法で、いつ始まったのか、どのようなものなのかよく知られていませんでした。

こうした土地区画が古墳時代（6世紀後半）につくられていたことを確認したことになります。これは全国でも初めてのことです。

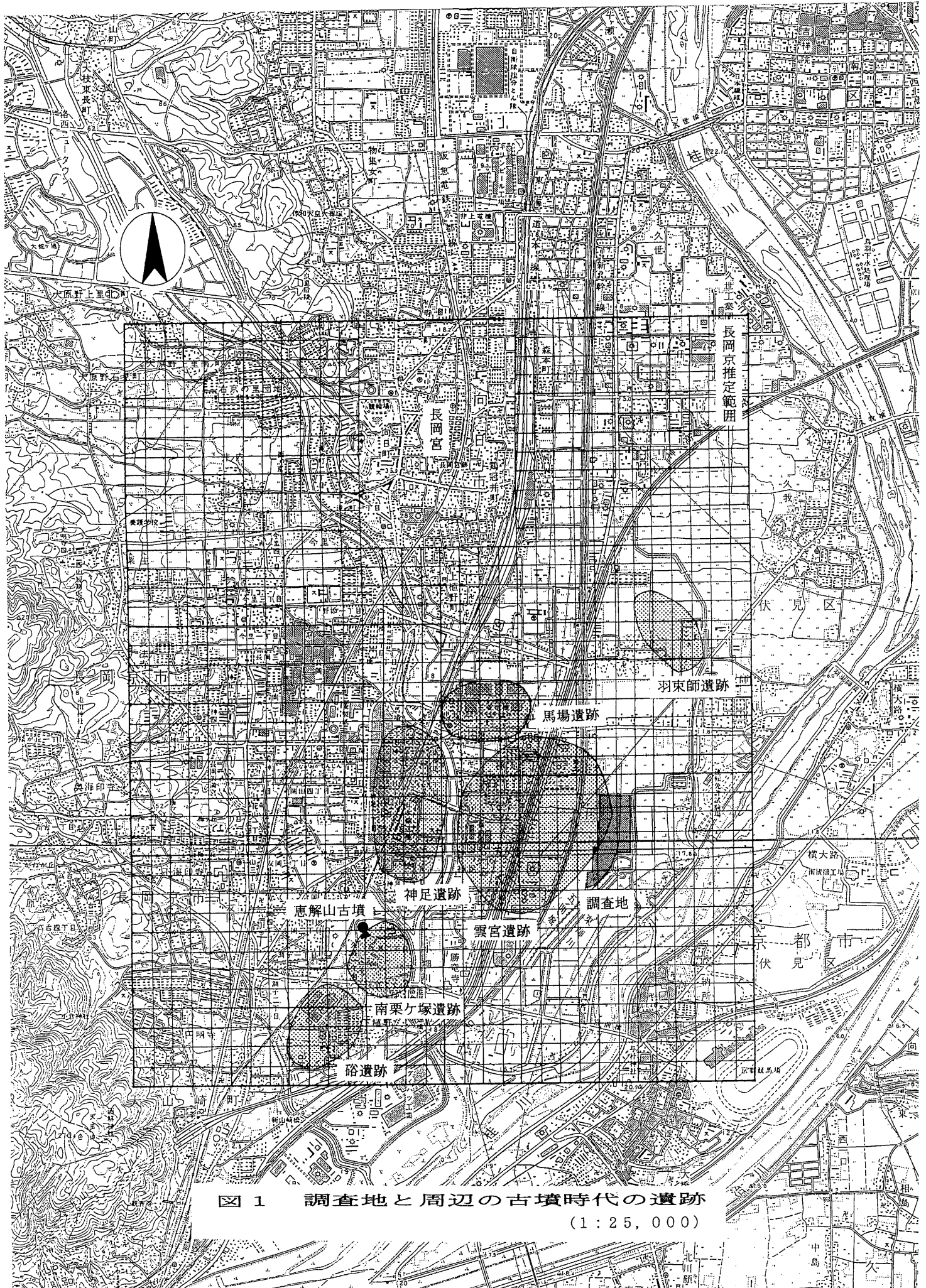


図1 調査地と周辺の古墳時代の遺跡  
(1:25,000)



图 2 古墳時代水田跡遺構配置圖 (1:1,000)

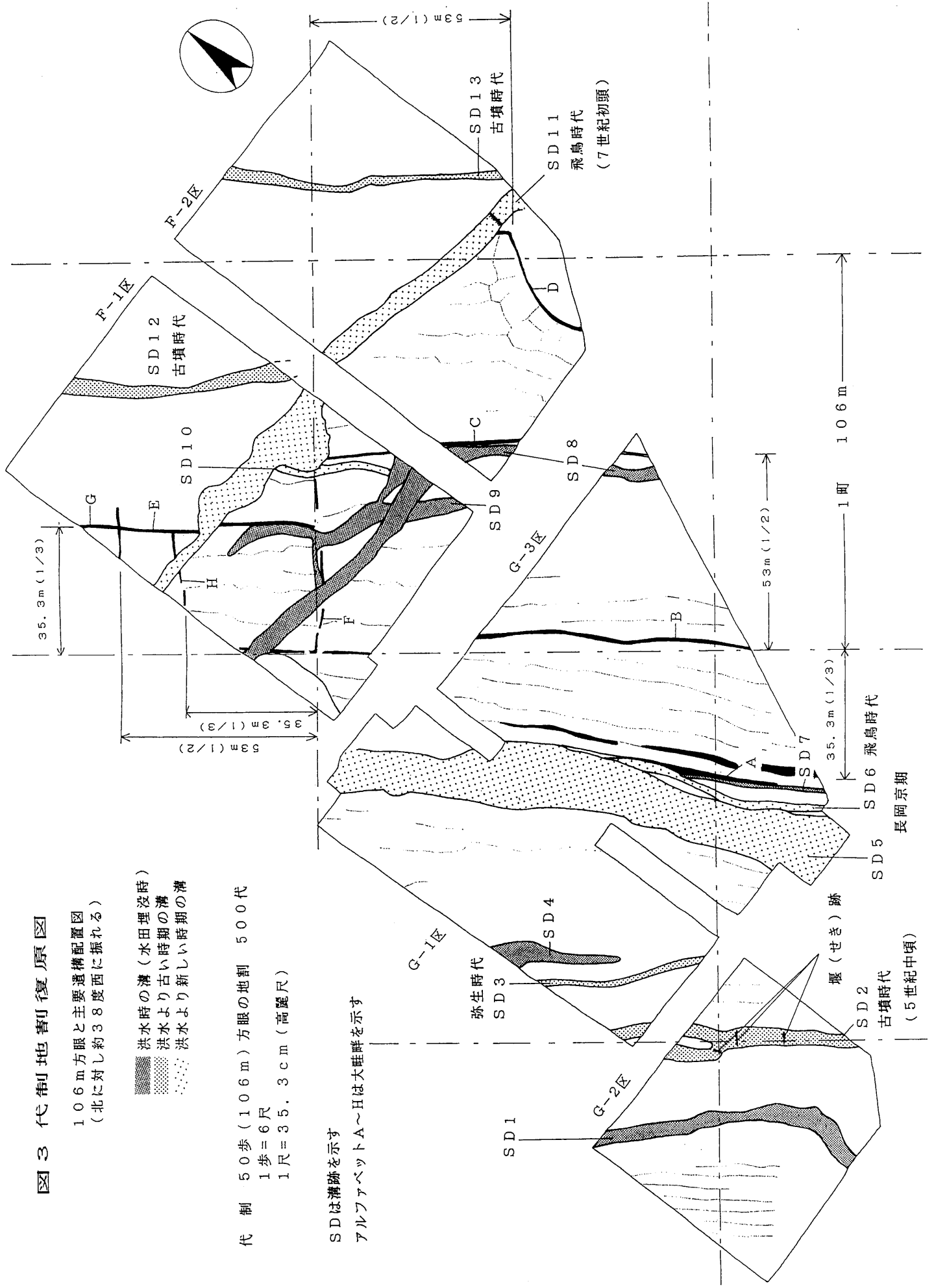
図3 代制地割復原図

106m方眼と主要遺構配置図  
(北に対し約38度西に振れる)

- 洪水時の溝(水田埋没時)
- 洪水より古い時期の溝
- 洪水より新しい時期の溝

代制 50歩(106m)方眼の地割 500代  
1歩=6尺  
1尺=35.3cm(高麗尺)

SDは溝跡を示す  
アルファベットA~Hは大畦畔を示す



弥生時代  
SD3

飛鳥時代  
(7世紀初頭)  
SD11

SD5  
SD6 飛鳥時代  
SD7

SD2  
古墳時代  
(5世紀中頃)

長岡京期

1町

106m

53m (1/2)

35.3m (1/3)

53m (1/2)

35.3m (1/3)

53m (1/2)

SD1

G-2区

SD3

SD4

堀(せき)跡

SD2

SD6

SD7

SD8

SD9

G-3区

SD12

SD13

F-1区

F-2区

